



いま、なぜ木製サッシか？

倉田久敬

日本のすべての建物がアルミサッシで覆いつくされているような感じさえするいま、なぜ木製サッシなのか、についてふれてみたいと思います。

アルミサッシはなぜこんなに普及したの だろうか

住宅部品としてのアルミサッシは、第1に価格そして性能、販売網などを総合してみると、まずは合格点に達しているようです。価格についてみるなら、20年以上も昔の木製窓に比較するなら別ですが、それなりの性能をもっている窓の中でアルミサッシより安価なものを見つけることは、難しいのではないのでしょうか。

性能も北海道のような寒冷地での耐結露性にこそ問題があれ、気密性や水密性はそれなりの水準に達していて、とりたてて問題にする点はあまりありません。幅広い意味での性能に入るであろう保守管理の容易さについても、木製サッシに比較するとアルミサッシは、ほとんど手入れ不要ともいえます。

また、販売網が完備していて、日本中どこに行ってもアルミサッシは、電話一本で手に入れることができます。

こうしてみると、アルミサッシがこれだけ伸びてきたのには、それなりの理由があることがわかります。日本全体でみるなら、たぶん、住宅サッシの量販商品としての王座は、当分の間アルミサッシが維持することになるでしょう。

では木製サッシの性能は劣るのだろうか

結論から言いますと、決して劣るものではありません。アルミサッシが普及段階にはいった初期に、木製窓は隙間だらけで気密性が悪いとよく言われました。それにはいくつかの理由があります。大工の作った開口部にあわせて建具屋が建具

をはめこむのが、その当時の窓であったことが第1の理由にあげられます。大工の技量にもよりますが、両側の柱とその間に掛渡された敷居、鴨居はきちんとした四角形になっていないことが多く、たとえ完成直後はきちんとしていても、その後の時間の経過と共に狂ってきました。このような開口部にはめこんで、なおかつ開け閉めがスムーズでなければならないのですから、気密性が悪いのも当然でした。第2の理由は、窓の製造に使う木材の乾燥が不十分であることが多かったということです。最近、道内で生産されている木製サッシ(14頁参照)は、これらの点が徹底的に研究されています。まず、サッシと称するからには外枠と建具が一体となっていて、建物にあげられている大まかな開口部に外枠ごとはめこむようになっています。こうすることで、建物の精度や完成後の経時変化とは関係なく、サッシとしての性能が確保されるようになりました。また、工場で生産することで、木材の含水率管理が容易に行えるようになりました。その他、いろいろと研究された結果、最近の木製サッシの性能は画期的な向上をはたしています。



窓は建物の顔である

住宅をはじめとして、建物の個性を決めるものは、屋根とともに窓です。建築家は窓の大きさ、形状、そこに使われている材料から受ける印象などに細心の注意を払うものです。屋根が建物の帽子であるとすれば、窓は建物の顔と言えます。

窓を作る材料には、できるだけ多くの種類があるのが好ましいと言えます。そういう意味では、木材もひとつの材料にすぎないのですが、木材には他の材料にない良さが多くあります。木製サッシを好んで使う建築家は、「素材としてのアルミやプラスチックに対する好き嫌いもあるが、なんといっても押し出し成形されたサッシパーから組み立てるサッシは画一的で、建築家の設計に対する自由度が低くなるので使い難い」とよく言われます。

その点、木材には建築家の思想を具現化するにあたっての高い自由度があります。さらに木材のテクスチャーは、何といても親人間的であり、住む人ばかりでなく、通りを歩く人のような周囲人々の心にも暖かみを与えることができます。



窓の文化

ヨーロッパを旅行する人々がよく目にするのは木造、石造にかかわらず、そこに取り付けられている木製窓だと思います。また、その種類の多いのには驚かされます。思いつくままあげてみても、ベイウィンド、フレンチウィンド、チムニウィンド、引き戸、上げ下げ戸、開き戸、突き出し戸などがあります。

それらは、その土地、土地の風土や土地柄を映して、長い歴史によってみがき出されたものでしょう。まさに、窓は文化といえます。日本にも、本州には障子という世界に誇る建具文化があります。しかし、残念ながら北海道にはまだ、窓文化といえるまでに育ったものはありません。北海道という寒冷地が要求する性能を追求してやっと現在、一応の水準に達するものが各材料ごとに出来上がりつつあるという段階です。

窓は性能ばかりでなく、形状、使い勝手、さらに建物にマッチした美しさなどの点で、用途と場所に応じた工夫が必要です。アルミサッシの普及によって気密性は増したが、その分結露が発生するような結果になってしまったのは、狭い意味での性能を追求しすぎた結果でしょう。窓はもっと広い範囲で、人間の生活にかかわっているものです。木材は日本人にとって、もっとも身近な建築材料であり、窓を作る材料としてみても、他にない優れた素質を多くもっています。

このような木材を生かして、北海道の窓の文化をはぐくんで行きたいものです。

(林産試験場 木材部長)